平新報

發行日　毎月三回　五ノ日發行
編輯兼發行印刷人　山野邊庄吉
福島縣平町壹丁目六
發行所　平新報社
廣告料　五號十二字詰一行　一回五十錢　場所指定倍增
一部　定價金拾錢
送料　五厘

國患に際し
荒川精一氏を憶ふ
『大東京より錄す』

荒川精一君は福島縣出身で、幼にして寸蛇呑人の氣があり、陸軍士官學校を出でて歩兵中尉に進み隊中錚々の譽があつた。感ずる所あつて現役を退き、專ら支那方面の研究に思ひを潜め交りを四方に求め、常に斯界に重きを推されてゐた。其の最も活動したのは田中内閣の不戰條約文中「人民の名に於て」が問題となつた時と、昨年の倫敦海軍々縮會議の時であつた。此の時こそは全く寢食を忘れ、席暖まるに遑なく、終に日本の不利と決定した時などは悲憤慷慨實に狂せん許りであつて、側の見る目も恐ろしい程であつた。其の後軟弱外交の暴露や、經濟界の不振等は、次から次へと彼をして焦燥悲憤せしめた殊に近時宮内大官の行爲に疑惑を懷き臣民最後の措置として合法的に上奏の他に道なしと決定するや、晝夜萬事を抛棄し、上奏文の起草に心身を傾け其の成るや直に其手續に及び、心中大に期する所あるものゝ如くであつた。

何ぞ知らん。意外にも彼は曩に滿腔の熱血を濺ぎ、禊齋筆を執り、敬虔文を綴つたあの上奏文が中途に壅塞せられ、終に天廳に達することを得なかつたと言ふことを聞き、終に彼は悲觀の極、死して明治大帝の御側に侍し、荒廢せる現在の狀勢を愬ふる外なしと覺悟し家人一瞬の油斷を偷んで、終に自刄した、其の末後に於ても彼は武士道の面目を重んじ、其の自刄が法に適つて居たか否かを再三再四傍に居た友人に糺した程であつた。其の悠揚迫らず死を見る猶歸するが如き武人の典型を示す何ぞ夫れ嚴なる。之を歷史に徵するに彼の高山彦九郎先生の誠忠に比すべきか。今や彼死して半歲。滿蒙の風雲は彼が在世中に豫想唱導した如くに進展して居る。若夫彼を今日に在らしめたるならば、如何に勇ましき活動を續けたのであらふ。否彼が一死以て祖宗の神靈に拜訴した結果は、現に段々と我を有利に導きつゝある。思ふて此處に到る時、彼の死は必ずしも無駄ではなかつた。

即ち一輓詩一絕を靈前に供す

荒世慨時終大死
川流滔々依君深
精靈笑追楠公跡
一片忠魂百世心

× × ×

×光線科
与田科醫院
磐城平町南町
電話一二九番

第三回磐劍演武大會
優勝旗は渡邊村
優勝刀は嵐と矢内

「屢報」磐城劍道會第參回演武大會は去る二十三日例年の通り新嘗祭の祝日に平商業學校武道場に於て執行され滿蒙問題もある秋！時節柄頗る活況を呈した、當日の概況左記

一、會長加藤丈夫氏都合上遲誕のため副會長小野寛美氏代つて尙武の眞骨頭を絕叫す、

一、會計藤井一氏主唱の下に國歌及び會剛領合唱

一、優勝旗、優勝刀の返納

一、試合に對する注意、小野副會長

一、大日本劍道の形、

國士館武術專門學校生徒打刀小野彌氏仕刀神尾宗敬氏

一、北辰一刀流之形、

水戸東武館長敎士佐藤信雄氏佐藤三郎氏

◇試合

審判員、敎士佐藤信雄、室直與、鈴木忠正、小野寛美佐藤恕、根本正行、藤井一庄司正之、大塚保、小林重三、國分午良諸氏審判の下に嚴蕭壯活裡に演ぜらる

一、一般試合、出場選手九十二名の四十八組

一、段外優勝刀、高点式にて泉村馬上八郎四点、磐中秋山常衛六点、好間矢内朝雄六点にて結局矢内君に優勝刀は授けらる。

一、優勝旗爭奪戰

一町村より三人組團体戰にしてトーナメント式試合、草野、大野、高久、赤井、好間、内郷、渡邊、錦、植田、平の拾ヶ團体出場、先つ平、渡邊、好間、高久、草野殘り、次は渡邊、草野平となり、續いて渡邊の選手澤田正幸、小野清美、瀨谷一晃、草野の阿部喜平、坂本一二、大平一の決勝戰に入り渡邊の優勝となる、

一、有段者優勝刀「高点式」嵐正三七点、木田茂重、三点、押田正光一点にて優勝刀は再び嵐正三氏の手に歸す、

◇閉會、加藤會長

因みに今回の大會には加藤會長は勿論、山崎清三氏諸橋久太郎氏、多田井笑次郎氏等より多大の援助と八十五才の室直與先生に水戸より自費を以つて來場された佐藤先生に對して紙上謝意を表するものである、又渡邊村優勝旗を第一回と今回と中を置いたが二回獲得し、嵐君が第二回と今回二年續いて優勝刀を授けられた事は若し來年の試合に同君最優せば永久に同氏の手に落つる理で同君の熱度や推稱すべきである。

出縣雜感

去る十七日磐中關係者が母校學級減に對し地方敎育上、思想上默し難くとし一應縣當局に諒解すべく出縣陳情せる事は既報の通りであるが川崎知事の眞意は中學敎育は二十學級を最高とするを理想らしく、實際問題たる可隣なる兒童の向學心を止め、それが入學難から及ぼす思想の變動に至つて居らず、地理的を考察して居らぬらしい、本年の如き安積が二百名の所へ二百八名といふ應募者に比べて磐城は二百五十名の所へ三百七十名もありそれが落第せる敗殘者は比較的に他校へ、安積の如く通學を許すべき近距離に其校がない、

× × ×

一歩讓つて二十學級が理想とするならば二十學級の現校を十五學級にする必要あるまい、兎に角設備が完備せば何も二十五學級に限らず三十學級でも可なりと信ずるもので何も校長一人にて、敎鞭を採るものにあらずと極論したくなるのではあるまいか、事、敎育は有産階級の子弟や、秀才のみを就學せしむるが國家の敎育の理想ではあるまい親元より通學さし得ればこそ安心して思想變化期にある生徒をして經濟的にも學ばしめ得るのである、大學、專門學生の如き特殊敎育とは異ると思ふ、出來得べくんば中學敎育は一家財政の許す範圍に於て希望者悉皆を學ばさするが現前の敎育であると信ずるものである縣が一郡一校主義の下に亂立せる因、何處に在るや不可解とせねばならぬ應募者の尠足せる校を廢する事、これ又重大問題である、事は論を俟まぬが、學級が多いから減ぜよとは聞えぬ事である、要はイタイケなる兒童が落第の憂目と、それに連る父兄、小學校訓導の心情に洞察して然るべきで港灣、河川、道路問題の如きと同一視すべきにあらざる事は磐中關係者ならざる他郡、他校の有志も火を賭るより明かな實際問題にして、地方的、政黨的に觀るべきにあらず、縣全体の向學者兒童の心理から割り出すべきであつて、決して我田引水の盲論ではないと思ふ

× × ×

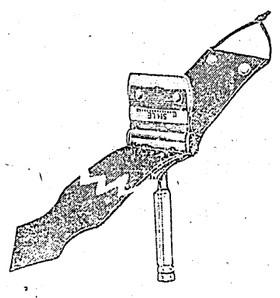
縣陳情途上、自動車上より眺むるに、やはり縣廳所在地近くの方面は道路でも橋でも石城地方に比して立派なものである。

× × ×

もう一つ縣廳が、山形縣に近き福島市に在る如きは、之れ最も不合理であり、郡山が中心であるが福島市よりは平の方が適當かも知れぬと言へたくなるし、寧ろ茨城縣に入つた方が緣故や、すべての意味で石城地方は好都合なのである。全縣民經濟上からどうしても縣廳は郡山へ移すべきである

（十一月十八日記）

度量衡販賣
液体空氣會社製
酸素含有量（百分中九九、五）
（東京工業試驗所證明）
吸入用酸素、酸素吸入器
正確 体温器 寒暖計
開内藥局
電話四〇番

新製品 ヨツト安全剃刀

研器兼用
皮砥付
替刄三枚付
1.00
平町五丁目
久釜屋商店
電話九番・九九番

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平町二丁目
長電話三番

磐中學級減問題
五學年一學級減
募集人員從前通りに決定

郡下兒童の入學難、試驗地獄を救ふべく、磐中學級減を豫知して立つた同校同窓會、父兄會は運動その効を奏して郡選出縣議の努力と川崎縣知事の善處とにより兎に角明年度は初年級は募集人員は從前通り二百五十名募集し五學年に於て一學級減に決定せるものゝ如く確實なる筋より內報があつた、これで七年度は職員一名減で納るものと觀られて居る。

社會風教上默し難くとし
公職の辭任を迫らる
鹿島村の金令樹某氏

鹿島村上矢田といふ大字は大した大きい字でもないが最近、沼堤問題にからんで實に農村にあるまじき紛亂を來して居つた、沼池問題兩者間の善惡判評は此處に避くる事とするが過般縣議選擧の余波として某々等が投じた××の一石は波紋に波紋を生じて、籔蛇同然の如く前同村の親方であつた金令樹某外何名が罰金刑に處せられ殊に頭目某氏は百貳拾圓の罰金に服し村會議員は當然失格したのであるが、去月二十八日縣社鹿島神社の奉告祭に際し、氏子總代といふ關係から憶面もなく出席東導せりとの事で同社氏子有志は頗る公憤し、不敬に當るとして氏子總代辭職を迫つて居るとの事である尙ほ同氏は二十三日の同村消防檢閱に當り顧問といふ格で祝辭を述べたといふ事でその圖々しさ非識加減と恥知らずに苦笑も出來ずあきれて居るといふ兎に角招待するも招待したり、出るものも出たり、前者に對しては神谷村の佐藤社司、後者に對しては佐藤組頭の處置よろしきを得ざると列席した樫村平警察署長の無關心サに慊れて居ると共に如何に選擧違反とは申しながら世道人心風教上かくの如き刑余者が法文がないとしても公職に就き恬として恥とせず、自ら辭せず、遠慮せざるものに對しては一日として許すべからざるのにして同氏の公職辭任を其筋に强訴するものゝ如く、同村有志は協議中である。

鐵脚縱橫
曰く曰くと其印象は？

◆山崎清三氏「在軍石城聯合分會長」氏曰く地主に集つて居る水田が地方農村の人々に還つて行く樣でなければ、眞の農村振興、自給自足といふ事は出來るものでない、

◆加藤丈夫氏「所得稅調査員、內鄕村會議員」の氏曰く、新聞記者や、料理屋藝妓屋花柳界の人々の食つて行かれる樣では、まだ〳〵不景氣でない、

◆橋本文壽氏「磐中校長」先生曰く、學校時代成績の如何を問はず、級長せずとも積極的に學友の世話や學友間に人氣の良いものはやはり社會へ出ても積極的に活躍し、社會的にリーダーして居るものだよ、

◆柴田德二氏「柴田書店主」氏曰く僕は天然物デーを設けて店員にそのシーズン〳〵に天然物を與へる事にして居る即ちスヰートポテートのときはそれ、柿の節は柿といふ事にテ、

玉川村瀆職事件は眞か僞か？
須らく探討を要す

矢田川改修に當り、玉川村に瀆職事件ありとし同村民はこれが糺彈をなしつゝあり一方其筋の內査が深く進んで居るものゝ如く農村振興上獅子身心中の虫として玉川村民、青年有志はこれが廓清に向つて居るとの噂サである。

× × ×

新舊新年祭の統一を又復高唱す

筆者は再三再四高唱する事であるが、この狹い日本で正月の祭り、即ち新年祭を三度も行ふのである、

一、新暦で行ふ所もあり

一、舊暦で行ふ所もあり

一、新の月オクリ二月に行ふ所あり、

一、平地方の如きは農家と官廳の板鋏みで新舊二度行はねばならぬのでその不經濟たるや、商取引上實に損害、大なるものであらふと思ふ。

くだらなき事業の中止とか、緊縮を斷行する爲政家は何が故に此の点に着眼して法律的に、帝國全体に統一せる新年祭を執行する方法を採らぬか、地方農村が何千年來の慣習上新年で出來ぬと申すかも知らぬが、出來ぬ事はなく、農家、年中行事中焚木の準備を除き大半は舊の十月二十日を以つて收穫や其他の仕事は終末を告げるものであり、反つて新暦ならば時節にクルヰないとの事である。

◆片倉社に進言す『物其平を得ざれば即ち鳴る』といふ韓退之の古言を！

高野得助氏
七日出發

平消防組小頭高野得助氏は今回家事都合上永らく住みなれた平町を引揚げ東京に居を占むる事になり明後七日午前十時四十五分平驛發にて出發する由である、氏は世人衆知の如く茨城縣人にしていはらき新聞平支局創設の功勞者であり同縣人會の融合に對してはこれ又絕大の貢獻をなし、今、離平に際し小頭を辭したが同組には大正六年七月伍長となり大正八年九月小頭となり同組に奉仕する事拾八年、在平する事二十八年、平を去るに臨みて定めし感慨無量の事であらふ。

× × ×

平藝妓玉代値下と
月一回公休日設置の聲、街に滿つ

◆總ての物價指數が下つたのに國家經營の汽車賃や煙草の如き加いて稅金が低下して居らぬ、その眞似をするワケじやないでせうが平の藝妓玉代を下げず、相變らず六十七といふ法外の事をやつて居る、一体、遊興稅を玉代の中に入れておくのが怪しからぬ、◆まあハツキリと一本五拾錢にしたらどんなものだらふ、而して、祝儀は二本居つても、何本居つても圓助、女中は半圓としたら時節適當の事じやないかね、◆丸友ホールは全費消高の一割を奉仕料として勘定書に出すがこれやなか〳〵評判が良いぞ◆其藝妓主人は曰くだ、費消し遊興するものは玉代が一圓でも差支いないと、◆そうすると藝妓そのものは社會の機關でなく、一遊蕩兒の私有物となると定義を下さねばなるまい、勿論遊蕩兒は倉を賣つても、水田山林を抵當にしても費消するからそういふ愚論を吐くのかも知れぬが、宴會や公共の歡送迎宴に藝妓の必要なしといふのか、◆兎に角藝妓屋主諸君は今少し時代の潮れを解して、抱い料も大分低下して來たのだから玉代を下げて一般會衆の利便を諮つたらよからふと思ふのだ、◆もう一つ月一回の公休日を設けなさい、各地を通じて公休日のないのは平地方位のものであらふこんな点は理由の說明もなく、賢明なる其業者の百も承知の事であらふと思ふ、理解のある樫村平署長殿はかつて娼妓に公休日を設けた筈と心得て居る、どうです一つ諸裙と懇談の上、月一回の公休日を設置してはとの聲が紅裙許りの聲ではない樣だ、

招いて効なし
片倉の差別

過般の磐城劍道會の演武大會には晝飯は來賓にも會員にも甲乙をつけず、ニギリムスビ二つに香のもの梅ボシといふ公平ぶり、所が當日行はれた、片倉會社のヤリ方大分差別待遇せりとかでその非常識振りに非難されて居る、

高木中佐歡迎會
主催磐中同窓

歐米視察より歸國、展墓のため歸鄕した海大敎官中佐高木武雄氏の歡迎會を同窓たる磐中同窓會、職員では去月二十八日谷口に於て催したが舊師酒井龍之進氏をも招き、時節柄意義深きものであつた、

話耳目

選擧違反を恥とせぬ樣では、又それを大した罪でない樣に心得て居つてはいつになつても選擧の廓清、善政を望み得ないではあるまいか、

× × ×

小兒の指を切る如き支那暴民の慘虐振りは到底常識を以つて判斷し得ず、論語讀みの論語知らざる彼等をして反省させねばならぬ、又彼支那の敎育方面の如何は推して知るべきで、此の意味に於て敎育は大事なものであり吾人は飽くまで、人道の敵として弱き同胞鮮人のため鬪はねばならぬのである、此の酷寒に正義に立脚して滿洲の曠野に犧牲的奉仕をなす帝國軍人への同情は、それが賣名的であらふと、心からとを問はず誠意を以て慰問するのは當然の事である

× × ×

此の國難に直面して吾人は大同團結和衷協同、各々持つ天職に向つて全力を傾注し、對外に當らねばならぬ、自己の職に忠實なる事はこれ護國であり、奉公の眞の發露であらねばならぬ、

知人消息

◇阿部政右衛門氏、氏は過日より高野、入の湯に療養中である。

◇坂田千平氏、氏は過般仙台へ入營せるが疾兵除隊で歸家し頗る殘念がつて居る

內科、小兒科、皮尿科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

平町田町
高久病院
電話五三一番